

〔基本的な考え方〕

総合的な探究の時間は、中学部又は中学校で学んだ総合的な学習の時間での取組を基盤とし、より探究的な視点を働かせながら、自らの力で探究、整理・分析し、まとめ・表現することができることを目標としている。

本校の生徒は、入院や治療、体調不良等のために学習時間の制約や学習できない期間等があるため、学習の定着や進捗において遅れることがある。また、活動の制限等により体験学習や社会生活上の経験が浅い傾向にある。探究的な活動においては、コンピュータや情報通信ネットワークなどを利用して情報を容易に入手することができるものもいるが、分かったことを深く追求したり、まとめたり、分析したりすること、また様々な情報手段を駆使することに不慣れだったりする。

そこで本校では、探究活動と体験活動を大きな学習活動として掲げ、生徒の実態や学習状況を考慮しつつ、他教科等との関連を働かせながら横断的・総合的に行っていくこととする。探究の過程においては、課題についての知識や技能の深化、総合化を図りつつ、他者と協働して解決しようとする学習活動やまとめたり表現したりするなどの言語活動も充実していくようにする。

〔目標〕

- ・ 他教科等と関連づけながら、それぞれの知識及び技能を身に付けることができる。(知識・技能)
- ・ 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につけることができる。(知識・技能)
- ・ 身近な生活や自己との関わりから主体的に課題を設定し、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現することができる。(思考力・判断力・表現力)
- ・ 自己及び他者と協働して取り組みながら、自分の進路や生き方、よりよい社会について考えることができる。(学びに向かう力、人間性等)

〔評価の観点〕

- ・ 課題設定の力、情報を集める力、情報を処理する力、見通しを持って取り組む力、結果をまとめて発表する力、他者と関わる力、自分・友達のよさを発見する力、主体性、問題解決への意欲、自己の生き方、興味関心の拡大

〔指導上の留意点〕

- ・ 課題設定においては、生徒の主体性を尊重する。自らの課題設定が難しい場合は、教師が効果的に動機付けを行っていく。
- ・ 生徒の実態や生活年齢、学習状況や経験等も考慮しながら、生徒が自らの課題を解決できるように配慮する。
- ・ 教師はできるだけ具体的な指示をしたり、誘導したりせず、生徒の求めに応じてサポートする。
- ・ 活動においては、他教科等との関連を図り、横断的・総合的に行っていく。
- ・ 指導においては、生徒のこれまでの学習状況を把握するとともに病気の状態や学習時間の制約、発達段階や特性等を考慮する。また、入院期間や病気の状態等に応じ、指導の時期や方法、時間配分など学習のつながりや連続性に配慮する。
- ・ 評価は、結果ではなく探究のプロセスを大切にする。探究の過程において、どのような課題を設定し、それを探究する過程で何に気づき、どのように考えを深めたか。また、どのような問題解決の力が付いたかを重視する。

総合的な学習の時間

総合的な学習の時間—小学部 中学部

1 基本的な考え方

総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを大きな目標としている。

本校の児童生徒は、障害の状態が重度化・多様化しており、長期の入院を経験したり、日常生活面においても医療的なケアが必要であったりと、学習を進める上で、様々な配慮が必要である。また、生活経験や集団での活動も不足しがちという課題がある。

そこで本校では、校外学習や修学旅行など体験的な学習において豊かな自然や文化に触れることで日常生活の経験不足を補い、外界への興味・関心の拡大を図ったり社会的なマナーを身に付けたりすることを目指すこととする。また、学習発表会や交流学习において体験的・探究的な学習の設定ができるように工夫し、他者と関わったりコミュニケーションを図ったりしながら課題解決に必要な知識及び技能を身につけられるようにしたい。情報の活用においては、機器の使い方や情報モラルについて学習し、学習活動においてそれらを使って情報収集や整理・分析、まとめ・表現等、多様な学習に取り組めるよう配慮する。さらに、テーマ学習や進路学習など探究的な学習について主体的・協働的に取り組むとともに、教育的ニーズに合わせて計画を立てることにより、明確な課題を立て、自己の生き方について考えることのできる機会とし、次のテーマを中心として指導内容を設定する。

○ 小学部 「発見」

- ・ 興味・関心の拡大を図る。
- ・ 学習の楽しみ、「調べる」「分かる」「できる」ことの喜びを味わう。

○ 中学部 「深化」

- ・ 自主的に取り組み、達成感を味わう。
- ・ より追求して取り組み、新たに創造する力を付ける。

2 目標

(1) 小学部

ア 興味・関心を広げるとともに、課題解決を主とした社会生活に必要な基礎的な知識及び技能を身に付けることができる。(知識・技能)

イ 身近な生活や社会生活の中に課題を見つけ、情報を集め、まとめたり、表現したりすることができる。また、情報機器の基本的な使い方について知ることができる。

(思考力・判断力・表現力)

ウ 学んだことを振り返り、現在や将来の生活を主体的、かつ、豊かに過ごそうとすることができる。(学びに向かう力、人間性)

(2) 中学部

ア 課題解決を主とした社会生活に必要な知識及び技能を身に付けることができる。

(知識・技能)

イ 身近な生活や社会生活の中に自ら課題を立て、情報を集め、まとめたり、表現したりすることができる。また、情報機器の適切な使い方について考えることができる。

(思考力・判断力・表現力)

ウ 自分の生き方や将来を関連付け、自分の障害や自分の進路について考えることができる。(学びに向かう力、人間性)

3 評価の観点

小学部	中学部
<ul style="list-style-type: none">・ 課題解決能力・ 情報機器利用・ 主体性・ 協働性・ 自己理解・ 他者理解・ 興味関心の拡大	<ul style="list-style-type: none">・ 課題解決能力・ 情報機器利用, 活用・ 主体性・ 協働性・ 自己理解・ 他者理解・ 将来設計能力・ 興味関心の拡大

4 指導上の配慮事項

- ・ 具体的な学習テーマや学習方法など、児童生徒自らの課題意識や興味・関心に基づき選択・設定できるように、教師が包括的な複数の具体的なテーマを示す。
- ・ 児童生徒が直接体験し、問題解決に取り組む活動を積極的に取り入れられるような場の設定を工夫する。
- ・ 事前・事後に、学習内容などについての指導を十分に行い、児童生徒の興味・関心・意欲を高め、学習したことを今後の学習の中で生かせるよう工夫する。
- ・ いろいろな調べ活動・学習が行えるようにコンピューター等の情報機器や情報ネットワークの整備に努め、多様な学習活動を展開できるよう配慮する。
- ・ 多様な学習活動に応えるために、学年、学部、課程の枠を超えた学習形態の工夫を積極的に図る。
- ・ 総合的な学習の時間に身に付けた力を、各教科等の学習や今後の生活において生かしていくことができるように配慮する。
- ・ 各教科等との連携を図り、他の行事などと適切な時期に合わせながら、体験的な学習ができるようにする。
- ・ 将来の生活や就職を見据え、職場見学や進路講話などに参加できるようにする。

総合的な探究の時間

総合的な探究の時間—高等部

1 基本的な考え方

総合的な探究の時間は、小学部又は中学校で学んだ総合的な学習の時間での取組を基盤とし、より探究的な視点を働かせながら、自らの力で探究、整理・分析し、まとめ・表現することができることを目標としている。

本校の生徒は、入院や治療、体調不良等のために学習時間の制約や学習できない期間等があるため、学習の定着や進捗において遅れることがある。また、活動の制限等により体験学習や社会生活上の経験が浅い傾向にある。探究的な活動においては、コンピューターや情報通信ネットワークなどを利用して情報を容易に入手することができる者もいるが、分かったことを深く追求したり、まとめたり、分析したりすること、また様々な情報手段を駆使することに不慣れだったりする。

そこで本校では、探究活動と体験活動を大きな学習活動として掲げ、生徒の実態や学習状況を考慮しつつ、他教科等との関連を働かせながら横断的・総合的に行っていくこととする。探究の過程においては、課題についての知識や技能の深化、総合化を図りつつ、他者と協働して解決しようとする学習活動やまとめたり表現したりするなどの言語活動も充実していくようにする。

○ 高等部 「自立」

- ・ 「自己像」を探る。
- ・ 自己実現を目指す。

2 目 標

- ・ 他教科等と関連付けながら、それぞれの知識及び技能を身に付けることができる。(知識・技能)
- ・ 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付けることができる。(知識・技能)
- ・ 身近な生活や自己との関わりから主体的に課題を設定し、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現することができる。(思考力・判断力・表現力)
- ・ 自己及び他者と協働して取り組みながら、自分の進路や生き方、よりよい社会について考えることができる。(学びに向かう力、人間性等)

3 評価の観点

高等部	
・ 課題設定の力	・ 情報収集・処理
・ 計画性	・ 分析力、表現力
・ 主体性、協働性	・ 自己・他者理解
・ 自己の生き方	・ 興味関心の拡大

4 指導上の配慮事項

- 課題設定においては、生徒の主体性を尊重する。自らの課題設定が難しい場合は、教師が効果的に動機付けを行っていく。
- 生徒の実態や生活年齢、学習状況や経験等も考慮しながら、生徒が自らの課題を解決できるように配慮する。
- 教師はできるだけ具体的な指示をしたり、誘導したりせず、生徒の求めに応じてサポートする。
- 活動においては、他教科等との関連を図り、横断的・総合的に行っていく。
- 指導においては、生徒のこれまでの学習状況を把握するとともに病気の状態や学習時間の制約、発達段階や特性等を考慮する。また、入院期間や病気の状態等に応じ、指導の時期や方法、時間配分など学習のつながりや連続性に配慮する。
- 評価は、結果ではなく探究のプロセスを大切にする。探究の過程において、どのような課題を設定し、それを探究する過程で何に気づき、どのように考えを深めたか。また、どのような問題解決の力が付いたかを重視する。

総合的な学習の時間／総合的な探究の時間 全体計画

○学校教育目標

病弱や肢体不自由のある児童生徒の命や人権を守り、教育的ニーズを的確に把握し、一人一人の発達段階や特性に応じた教育を行い、自立と社会参加に向けて心豊かに生きる児童生徒を育成する。

○本校の児童・生徒の実態（課題）

- ・ 病弱や肢体不自由障害のある児童生徒のQOLの維持、向上
- ・ 生活経験の拡大とコミュニケーション能力の向上
- ・ 自己理解を深め、将来のことについて考える力と社会生活に必要な知識の育成

○保護者の願い

- ・ 健康で安全な学校生活の確立
- ・ 基本的な生活習慣、生活リズムの確立
- ・ コミュニケーション能力の確立
- ・ 自立と社会参加に向けた生きる力の育成

○各学部の指導目標及び学習テーマ、評価の観点

小学部	中学部	高等部
【目標】 (知識・技能) ○ 興味・関心を広げるとともに、課題解決を主とした社会生活に必要な基礎的な知識及び技能を身に付けることができる。 (思考力・判断力・表現力) ○ 身近な生活や社会生活の中に課題を見つけ、情報を集め、まとめたり、表現したりすることができる。また、情報機器の基本的な使い方について知ることができる。 (学びに向かう力、人間性) ○ 学んだことを振り返り、現在や将来の生活を主体的、かつ、豊かに過ごそうとすることができる。	【目標】 (知識・技能) ○ 課題解決を主とした社会生活に必要な知識及び技能を身に付けることができる。 (思考力・判断力・表現力) ○ 身近な生活や社会生活の中に自ら課題を立て、情報を集め、まとめたり、表現したりすることができる。また、情報機器の適切な使い方について考えることができる。 (学びに向かう力、人間性) ○ 自分の生き方や将来を関連付け、自分の障害や自分の進路について考えることができる。	【目標】 (知識・技能) ○ 課題の発見と解決に必要な知識・技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解することができる。 (思考力・判断力・表現力) ○ 身近な生活や自己との関わりから主体的に課題を設定し、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現することができる。 (学びに向かう力、人間性) ○ 自己及び他者と協働して取組ながら、自分の進路や生き方、よりよい社会について考えることができる。
【学習テーマ】「発見」 ○ 興味・関心の拡大を図る。 ○ 学習の楽しみ、「調べる」「分かる」「できる」ことの喜びを味わう。	【学習テーマ】「深化」 ○ 自主的に取り組み、達成感を味わう。 ○ より追求して取り組み、新たに創造する力を付ける。	【学習テーマ】「自立」 ○ 「自己像」を分析する。 ○ 自己実現を目指す。
【評価の観点】 ○ 課題解決能力 ○ 情報機器利用 ○ 主体性 ○ 協働性 ○ 自己理解 ○ 他者理解 ○ 興味関心の拡大	【評価の観点】 ○ 課題解決能力 ○ 情報機器利用、活用 ○ 主体性 ○ 協働性 ○ 自己理解 ○ 他者理解 ○ 将来設計能力 ○ 興味関心の拡大	【評価の観点】 ○ 課題設定の力 ○ 情報収集・処理 ○ 計画性 ○ 分析力、表現力 ○ 主体性、協働性 ○ 自己・他者理解 ○ 自己の生き方 ○ 興味関心の拡大

○各学部指導内容

小学部	中学部	高等部
(A,B課程) 体験学習 ○ とびだせ探検隊 ・ 校外学習(年2回) ・ 修学旅行(5・6年) ※隔年実施 ○ 学習発表会をしよう ・ 準備、係活動、練習等 ○ 近隣の学校の友達と交流しよう。	(A,B課程) 体験学習 ○ 校外学習について調べよう、まとめよう。 ○ 修学旅行について調べよう、まとめよう。(※修学旅行該当学年のみ実施) ○ 学習発表会を成功させよう。 ○ 作品展を成功させよう。 ○ 交流学習を成功させよう。	(A課程) 探究的な学習 ○ 探究課題 ・ 現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題(国際理解、情報、環境、福祉・健康など) ・ 地域や学校の特色に応じた課題 ・ 生徒の興味・関心に基づく課題 ・ 環境や自己の進路に関する課題
情報の活用 ○ パソコンの使い方を知ろうⅠ・Ⅱ	情報の活用 ○ 情報モラルについて考えよう。	体験学習 ○ 校外学習に向けて(1・2年) ○ 校内実習および産業現場等における実習に向けて(3年) ○ 修学旅行に向けて(3年) ○ 交流及び共同学習に向けて(全学年)
探究的な学習 ○ テーマ学習 ・ 地域の伝統行事(3年) ・ 半成人に向けて(4年) ・ 環境問題について(5年) ・ もうすぐ卒業(6年)	探究的な学習 ○ 余暇活動について考えよう。 ○ 自分の進路について考えよう。	(C課程) 体験学習 ○ 校外学習・修学旅行について調べる、まとめる。 情報の活用 ○ 情報機器を活用する。 探究的な学習 ○ 「自分探し」 ・ 自分の好きなこと、興味のあること、調べてみたいことについて調べて、発表する。